

現況分析における顕著な変化に
ついての説明書

教 育

平成22年6月

広島大学

目 次

2 3. 法務研究科	1
------------	---

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 広島大学

学部・研究科等名 法務研究科

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目：V 進路・就職の状況

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名：卒業（修了）後の進路の状況

本研究科の修了者は、平成 21 年 3 月末現在の累計で 134 名となり、このうち 54 名が新司法試験に合格（他に 1 名が旧司法試験に合格）し、その殆どが弁護士（29 名）として活動ないし修習中（21 名）である。弁護士登録者の大半が広島弁護士会に所属（21 名）し、その活動については高い評価を得ている（弁護士等は現時点で把握できている者の数）。

本研究科の修了者の新司法試験累計合格率は、1 回目受験の 20 年度修了者（21 年試験を受験）を除き、各年度とも全国平均を大幅に上回っている（下表参照）。また、各年の合格率を見ても、対修了者比率に近似するものとして法務省担当者も分析に用いている対受験予定者比率は、20 年、21 年と全国平均を上回っている（因みに 21 年は 14 位）。なお、対定員比率（注）で見ても、20 年、21 年と全国平均に比べ遜色のない水準にまで上昇している。

（注）貴機構は対定員比率のみを以って評価されているが、同比率は、厳格な成績評価・修了認定が行われるほど低下するというジレンマを内包するものであり、これのみを唯一の指標として用いることは必ずしも適切ではないと考えられる。

以上のことから、本研究科における「進路・就職の状況」は顕著に改善しており、少なくとも「期待される水準にある」と判断できる。

（単位：％）

		広島大学				全国平均			
		18 年	19 年	20 年	21 年	18 年	19 年	20 年	21 年
合格 率	対受験予定者	25.0	29.0	30.7	22.3	47.5	35.1	26.8	21.4
	対受験者	25.0	34.4	36.5	25.0	48.3	40.2	33.0	27.6
	対定員	5.0	18.3	31.7	35.0	17.3	31.8	35.5	35.1
	当該年度修了者累計	75.0	51.7	53.7	15.4	69.5	48.1	39.2	28.2

（出所）文部科学省公表資料